

令和4年度 委員会だより

NO. 2

第2回組織・連携委員会編

北海道PTA連合

令和4年11月4日(金) 発行

1. 後藤委員長 挨拶
2. 令和4年度 オホーツク北見大会の報告(後藤委員長より)
3. 各地区P連のPTA活動の交流と今年度研究テーマについて
 - (1) 各地区の活動状況・実践報告・情報提供から
 - 【十勝管内PTA連合会】～ 畑 会長より
 - ① 研究大会について
 - ・ハイブリットで開催。(上士幌は現地集合、他はオンライン)
 - ・十勝教育局より「生活習慣や学習習慣の定着への取組」、植松努氏による講演。リハーサルはOKだったが、音声聞き取りにくいというトラブルが生じた。業者は入れていない。
 - ◇通信、回線の問題は課題であるが、広い地域の地区にとっては、オンラインはメリットが大きい。
 - ② 帯広市PTA連合会との情報交換はコロナ禍で出来なかった。
 - ③ 集う機会が少ない中で、メールでのアンケートで活動をまとめていった。
 - 活動状況 ○活動予定 ○単Pでの特徴的な活動や取組 ○コロナ禍におけるPTA活動の工夫や苦勞している点 ○その他PTA活動全般について
 - (アンケートへの回答より)
 - ・(足寄町)挨拶運動実施。PTA三役だけでやっていたあいさつ運動にPTA活動を広める意味を持たせ全体で実施した。CSも巻き込み、多くの方を巻き込んでの活動とした。
 - ・会費について
 - Q1～十勝の会費について教えてほしい。中札内の減額など。
A1～中札内村は年会費を減額しているが活動が再開しつつあるので戻す時期について考えている。
◇1度下げたら、当事者がいなくなってもなかなか戻せない。戻すのが大変。会費の減額については慎重に考えるべき。
 - ④ 来年は陸別町で十勝PTA連合会研究大会を開催予定
- 【胆振西部地区】～ 加藤会長より
 - 「壮瞥地区交流会」(後夜祭)の取組について
 - ① 「壮瞥地区交流会」(後夜祭)を開催するに当たって
 - ・コロナ禍でできないことが多かった3年生に思い出を作ってあげたい!地域を感じさせたい!という思いから行った。
 - ・学習指導要領の変更から学校祭が、学習内容の発表が中心となる。(校長)自分たちの頃も思い出深い行事である。(PTA)
 - ・保護者、地域と学校とをつなぐ学校祭としたかった。
 - ・9月30日「壮瞥地区交流会」という名称+後夜祭(夜:PTA主体)
 - ・目標は、大風呂敷にならないようにやってみよう。
 - ② 具体的な内容
 1. 太鼓の団体
 2. フラダンス
 3. キャンプファイヤー(PTA)
 4. 花火
 - ③ 開催の留意点等
 - ・PTA行事はマンネリ化すると学校任せになってしまう。無意識のうちにやってもらって当たり前となり、学校は重荷となっていく。学校にやってもらおうという意識を捨てよう。
 - ・生徒が「あのおじさん見たことある!おばさん知ってる!」と言って、シンプルに「祭りだ!」を楽しむことをテーマに取り組んだ。
 - ・1つ増やしたら、1つ減らす。他は見直す気持ちを忘れないで実施する。
- Q1～先生方の協力は?
A1～生徒を集めるまでは手伝ってもらった。昼は生徒主役、夜は地域、保護者が主で生徒はお客さん。先生方もフラダンス等に入り参加。学校に丸投げしない。
校長「やれるところをやりましょう。」故郷愛は親から大切にしていけることが必要。
- Q2～来年以降が問題では?
A2～単発ではなく継続できるものにしようと、安全を第一に考え、次に繋げるために、大きく広げないことを意識した。費用は地域からも出してもらうということが大切。子どもたちのための活動は、みんな協力的。他の事とは別格。コロナで事業が精査されてきたので、やれる?やれない?がこの3年間。もしかしたらコロナでなければ、この事業も出来なかったかもしれない。

Q3～コロナ対策での苦労は？

A3～外でやれた。マスクのことも、うるさく言わなくても、できていた。地域の飲食店から一店一品のバザーをした。食べる時は教室・校舎を使用。

Q4～地域の批判は？ A4～全くなかった。

Q5～具合が悪くなった人は？

A5～まったくなかった。3年生の保護者は涙していました。参加の有無、スクールバス利用の有無も把握した。基本的に全員参加。内部資料では、司会美女2名と記載（ジョークを交えお母さんたちを味方につける）

Q6～進めるにあたって、単Pでは組織をつくった？

A6～単P組織というよりも、外部組織とのつながりをどう作るかが重要であった。郷土愛をしっかりとった活動であり、主語が子どもたちであれば賛同を得られる。

Q7～その他（参加委員からの意見も含む）

- ・キャンプファイヤーの届け出のみでハードルは高くない。
- ・子ども・親、両方とも喜んでくれた。良かったという地域の人が今後繋いでくれるはず。
- ・高校の学校祭みたい。地元愛の人も居るでしょう。一つの取組に全てのものが凝縮された。
- ・校長の理解が一番。先生方の理解もあればいい。校長の職場内コミュニケーションがよい。
- ・委員会の主旨に合致した取組であり、同規模の学校の参考になる。
- ・保護者の繋がりへの構築がすばらしい。飲み会のアイデアを絞るのがポイント。
- ・写真を撮る人は、「地域おこし協力隊」を紹介して記録してもらえた。

【釧路管内】～井関会長より

①「持続可能なPTA活動・組織」

- ・釧路管内における令和2～3年度の事業については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合形式の会議などは全て中止となった。今年度は、3年ぶりに釧路管内PTA連合会研究大会の開催に向けて準備を進めているところである。但し、今年度は開催町の浜中町に関しては人数を限定し集合形式の研究大会を行い、他の町村についてはZ o o mによる同時視聴という形で感染症拡大防止の対策を講じての開催とした。
- ・次年度以降も様々な形を模索し活動の推進を図っていきたい。

②「with コロナ時代のPTA活動」

- ・新型コロナウイルス感染症に翻弄された数年間であったが、この経験をとおり感染症拡大防止に対する様々な取り組みを学んできた。今後の活動についても様々な知見をもとにできることから活動を再開していきたいと考えている。北海道PTA連合会の重点目標の中にある、「大人が子どもたちの範となる行動を示し、子どもたちから尊敬される大人となる」を実践し、大人が成長した姿を見せることが、予測困難な時代を生き抜く子どもたちの資質能力の育成につながるとの強い確信をもちPTA活動を推進していきたい。

【オホーツク西部地区】～天野会長より

①「持続可能なPTA活動・組織」

- ・学校での所属委員会については、これまで通り年度初めに一人一委員会として決定しているが無理なく出来る範囲で活動するように、一人一人の事情に対応している。

②「with コロナ時代のPTA活動」

- ・紋別市は、「市民は会堂で参加し、それ以外の会員は後日配信するものをYou Tubeで見る」という形をとることにしている。
- ・今年度、遠軽町で実施する西部地区研究大会は、8月にオープンした「メトロプラザ」というホールで開催する。
- ・客席間の距離が広めにとられ、新たな空調設備により排気能力が高くなっていることから、オンラインではなく実際に集まって開催することにしている。
- ・学校での総会や部会を書面交流にし、書面決議を行っているところもある。

【日高地区】～伊藤会長より

①「持続可能なPTA活動・組織」

- ・コロナをきっかけに、今まであった組織の見直しをし、専門部をまとめたり、保護者が動きやすく参加しやすい（会議の回数を減らすなど）形へ変えている様子があった。

②「with コロナ時代のPTA活動」

- ・PTA活動の中でも運動会での手伝いなど、保護者が行っていたのを生徒自ら動く方向へシフトしたり、子ども達が主体的に活動するよう進める様子があった。

4. 令和5年度 札幌大会提言PTAの推薦

(1) 北海道PTA連合会 担当分科会

①第1分科会 組織・運営 **第3回委員会**で決定

②第5分科会 食育・情報

5. 研究集録の執筆について

6. 第3回委員会について

(1) 第3回 委員会の協議内容について

(2) 各地区研究大会の報告を意見交流（各地区報告書から）

(3) 各地区研究大会以外の市町村P連や単位PTAの実践交流

(4) 研究のまとめ（成果と課題の整理）

(5) 次年度の方向性